
特集：がん予防総合センター開設20周年記念

がん予防総合センター開設20周年おめでとうございます**Congratulation on 20th Anniversary of Niigata Cancer Prevention Center !**

坂井 美世子

Miyoko SAKAI

がん予防総合センター開設20周年おめでとうございます。

私と内視鏡室の関りを通して、当時の内視鏡室の様子を振り返ってみました。

がん予防総合センター（以下、予防センター）に移る前の内視鏡室は内科の隅の方にあり、間借り状態という感じでしたので、予防センター内に内視鏡室が移った時、やっと独立した自分達の城ができたという思いで、とても嬉しかったことを思い出します。

私は予防センター内への移転準備に携わってきましたが、残念ながら、移転後の内視鏡室に勤務したのは定年までのわずか6ヵ月間だけでした。予防センター内視鏡室での勤務は6ヵ月と短いのですが、当院での内視鏡室勤務は、初回と2回目を合わせて計19年（初回は昭和52年から平成元年までの13年間、2回目は平成5年から平成10年の6年間）になります。

初回の配属の時は、スコープなどの内視鏡機器を見るのははじめてで、まして自分自身も内視鏡検査を受けたことがありませんでした。内視鏡機器の取り扱いをはじめ、その洗浄・消毒やその他の周辺機器の取り扱いなど知らないことばかりで、毎日がとても怖く、緊張の連続であったことを思い出します。そのような形ではじまった私の内視鏡室での勤務でしたが、先生方のご指導で、その後、上部消化管内視鏡、ERCP（内視鏡的逆行性胆道膵管造影）、大腸内視鏡、腹腔鏡、気管支鏡など何でも介助できるようになりました。今から思えば、大変忙しい日々でしたが、あの頃は内視鏡の発展途上期だったように思います。丁度、当院の小越和栄先生らのご尽力でERCPが確立された時代でもありましたので、外国

の先生方や県内外の病院の先生方の視察・研修などで様々な先生方と接することができ、とても楽しい時代でもありました。当時は、小越先生をはじめ先生方が内視鏡機器や処置具の開発に携わっておられましたので、頻回にメーカーの開発担当者が当院にお見えになっていました。そのお陰で、私達もいろいろな勉強をさせていただいたことを思い出します。エネルギッシュな先生方がハードスケジュールをこなすお姿を見ながら、私達なりに一生懸命お手伝いいたしました。内視鏡フィルムや生検のプレパラートなどの内視鏡に関係する資料が、必要な時にすぐ取り出せるようにしたことなど懐かしく思い出されます。

2回目の配属の時は、小越先生の会長のもと第45回日本消化器内視鏡学会総会が新潟市で開催されました。その学会のお手伝いをしたのもよい思い出です。その学会の後に、予防センター設立の話が出て、その立ち上げに携わり、無事引っ越すことができたのです。移転後の内視鏡室勤務はわずか6ヵ月間だけでしたが、退職まで予防センターの内視鏡室で働くことができ、とても幸せでした。

私事ですが、自分自身も胃アニサキス症になり一晩苦しみましたが、翌日内視鏡下でアニサキスを摘出してもらった経験があります。それ以来、毎年、上部消化管内視鏡検査を受けています。

無我夢中で過ごした日々も、20年たった今では、記憶も遠き断片的に思い出すのみですが、よい職場に配属されたことを誇りに思っております。

高齢化社会の時代、ますます、予防センターの存在意義が大きくなっています。今後の予防センターのご発展を心よりお祈りいたします。